

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。(言語活動の充実を盛り込む)

- ① 授業公開、校外での授業参観などを通して、授業力の向上、授業研究体制を構築する。
 - ・ 授業見学のしくみが定着することによって、同教科だけでなく他教科の授業見学が増加し、言語活動の充実に向けての理解が深まった。今後は、個人の研修から教科での研究へステップアップできるよう、教科会議を充実させ、組織・個人としての指導力・授業力の一層の向上を図る。
 - ・ 新教育課程に対応した指導計画を作成していく。
 - ・ 校外での教科指導研修講座への参加や岡山大学 2011 年度入試問題の解答・解説冊子の作成・配布は指導力・授業力の向上につながった。次年度は他の国公立大学の問題研究を行うとともに、校外での授業研究をさらに推進し、研修成果の共有が図れる工夫を図る。
 - ・ プロジェクト研修会を実施した。今後は授業での効果的な利用方法の研究を推進する。
- ② 授業アンケートの活用の工夫を図る。

- ・ アンケートの形態や質問項目を見直し、実施後は個人データをグラフ化して全教員に個別配布した。今後はアンケート項目に言語活動の視点も盛り込み、言語活動の充実において育まれた力の検証も行う。

2 学習習慣の確立。

- ① 学習実態調査を実施し、効果的な指導を行う。
 - ・ 年間5回の学習実態調査を実施した。予習・復習の取り組み状況を分析し、個人面談で指導を行った結果、家庭学習時間の若干の伸びを見せた。今後は進路への具体的な目標を明確にさせながら学習習慣の確立を目指す。
 - ・ 課題の提出や小テストへの取り組み状況は向上してきているが、提出期限が守られなかったり、未提出者に固定化傾向が伺える。次年度は、さらに個別指導を続けながら、授業や課題内容の一層の工夫を図る。また、学習マナーの定着を図る。
- ② 進路通信、年次通信で情報発信する。
 - ・ 進路への意識を高め、家庭からの協力と理解を得るために、更に内容の充実した通信を発行する。

3 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。

- ① 生徒が主体となって企画運営させる体制作りをする。
 - ・ 生徒会執行部を中心とした自主的な活動が学校行事で展開できるようになり、それが委員会活動へ広がっていった。今後は生徒会執行部と各委員会との連携を推進し、各委員会の活動を全校に広げていくことが課題である。

4 情報を共有し課題意識を持って取り組むことができる協働体制作り。

- ① 教員間の情報交換及び共通理解を図る。
 - ・ 進路指導や生徒指導などについて、各分掌、年次内の情報の共有はできたが、分掌や年次を超えての共有が図りにくかった。次年度は情報を与えられるのを待つだけでなく、必要な情報を自ら求めていく意識も持ちながら、課題意識の共有、課題解決のための議論へと組織的な取り組みを進める。
 - ・ 部の顧問会議の回数が少なく連携が不十分であり、実施方法が来年度の課題である。

2 学校関係者評価委員名

小野和博 (同窓会関係者)	八木橋康広 (PTA 関係者)	松本 皓 (吉備国際大学長)
菊楽浩美 (PTA 関係者)	豊田正美 (高梁中学校長)	

3 学校関係者評価

指導力・授業力の向上については、各教科、課、年次団等で組織的に取り組むことが大切であり、その体制づくりに向けてのさまざまな工夫が見える。生徒の学習習慣の確立に向けては、進路課、年次、各教科等で一層の連携を図りながら努力していただきたい。また、生徒が人間力を高め、生き生きとした3年間を送るためには、生徒が自主性を発揮できる場面作りと学びの喜びへの体験が必要である。次年度は、学校行事、各種委員会等を充実させていくとともに、情報の共有を推進させながら、さらに組織的な取り組みとなるよう期待する。

4 来年度の重点取り組み(学校評価を踏まえた今後の方向性)

生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上、生徒の学習習慣の定着、委員会活動の活性化など、今年度の評価の課題を重点的に、各課等で連携を密にしながら組織的に取組む方策を構築する。